別　記
様式第1号（第8条、第9条、第12条関係）

事業者行動（計画・変更計画・報告）書

令和5年7月11日

（宛先）
滋賀県知事　　殿

提出者
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）
東京都中央区銀座5丁目12番8号

氏名（法人にあっては、名称および代表者の氏名）
王子エフテックス株式会社
代表取締役社長　大野　直孝
（代理人）取締役執行役員滋賀工場長　伴　哲哉

滋賀県CO_2ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例［~~第25条第3項~~・~~第25条第4項~~ ~~第27条第1項~~・~~第27条第2項において準用する同条例~~ 第26条第1項 ~~第27条第2項において準用する同条例第26条第1項~~］~~第25条第4項~~］の規定に基づき、［事業者行動計画を 策定　~~（変更）~~ 事業者行動報告書を作成］したので、提出します。

事業者の氏名（法人にあっては、名称および代表者の氏名）	王子エフテックス株式会社 代表取締役社長　大野　直孝
事業者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	東京都中央区銀座5丁目12番8号

1　事業者の概要

事業所の名称	王子エフテックス株式会社　滋賀工場					
事業所の所在地	滋賀県湖南市朝国65番地					
主たる事業	日本標準産業分類細分類番号	1	8	2	1	※ 産業分類・細分類名称を記載 プラスチックフィルム製造業
事業の概要	コンデンサ用、特殊工業用、包装用のポリプロピレンフィルム製造、塗工等によるフィルム加工品製造					
従業員の数	187　人	操業時間	24　時間／日			
該当する事業者の要件	☑ 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500ｷﾛﾘｯﾄﾙ以上の事業所を県内に有する事業者					
	☐ 従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者					
	☐ 任意提出事業者					
主要な設備	ボイラ	3　台	熱源設備	台	照明設備	台
	コンプレッサ	9　台	空気調和設備	台	その他	脱臭装置　1台

2　計画期間（および報告対象年度）

計画期間	開始年度	令和4　年度	報告対象年度	令和4　年度
	終了年度	令和4　年度		

3　計画の（内容・実施状況）

計画の（内容・実施状況）	別添のとおり

注　用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

標準様式第1号・標準様式第2号

（第1面）

1　CO_2ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

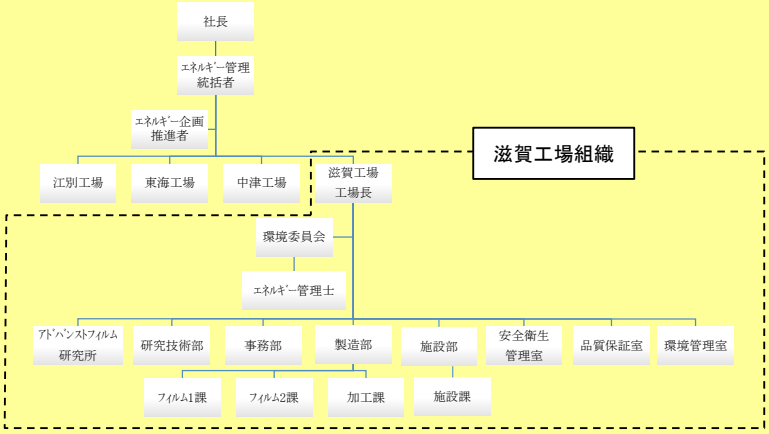
琵琶湖に代表される、豊かな自然をもつ滋賀県に位置する工場として、環境と調和した活動を展開します。

① 環境関連の法令、滋賀県及び湖南市と取り交わした協定、滋賀工場の基準を遵守し、汚染の予防に努めます。
② 滋賀工場の事業活動についての環境影響を評価し、環境目標及びﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを定め、環境管理活動を推進します。技術的、経済的に可能な範囲で環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
③環境パフォーマンスのターゲット
・環境事故ゼロ
・温室効果ガス（GHG）の削減
・廃棄物の有効利用の推進
・生態系に配慮した排水、排気の管理
・環境負荷の小さい製品の開発

2　取組の推進体制

〇責任者：事業者　代表取締役社長
　　滋賀工場　取締役執行役員　滋賀工場長

〇推進体制（組織図）　事業者としての組織図



3　これまでに取り組んできたCO_2ネットゼロ社会づくりに係る取組

省エネルギー設備の導入に関しては、王子グループとして毎年総エネルギーの1.5%を目標に取り組んでいる。
・水管ボイラから貫流ボイラへの型式変更
・有効活用できていなかったドレンを直接ボイラへと回収
・ボイラ、脱臭装置の燃料をA重油から都市ガスに燃料転換
・放熱の大きい箇所に保温材を取り付け
・エアー漏れの低減
・居室照明の効率化およびLED化
・コンプレッサー圧力の低減
・ファン、ポンプの回転数ダウン
・駆動装置の更新
・蒸気回収方法の改善
・各所設備にINV設置
・エアコンの更新

これらの取り組みにより平均すると年1.5%程度の省ｴﾈを達成している。

4　自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO_2排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	運用改善	蒸気のムダを減らすことによる蒸気原単位の改善	令和4年	計画通り実施
2	運用改善	ポンプ回転数最適化による省エネ	令和4年	計画通り実施
3	設備導入	設備最適化による省エネ	令和4年	未実施（実施延期）
4	運用改善	欠陥減による歩留まり向上	令和4年	計画通り実施
5	運用改善	エアコンフィルターの定期清掃による省エネ	令和4年	計画通り実施

(2) エネルギー起源CO_2以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1				
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
前年度を基準として目標を設定する。 原単位算出方法：温室効果ガス排出量/生産量（面積） 目標：R4年度の原単位をR3年度対比1%削減 なお、原単位、目標の考え方は次の通り。 ・当社は、製造業であり温室効果ガス排出量は生産量で大きく影響をうける。よって、生産量を分母で算出する方法が妥当である。 ・製品は年々薄物化へと移行しているため、分母の生産量は面積として設定した。	原単位：温室効果ｶﾞｽ排出量/生産量（面積）（kg-CO2/km2） ・平成25年度 19.3 ・平成26年度 20.1 ・平成27年度 19.6 ・平成28年度 19.0 ・平成29年度 19.5 ・平成30年度 18.5 ・令和元年度　20.5 ・令和2年度　20.2 ・令和3年度　18.2 ・令和4年度　16.9 原単位は良化し、目標を達成した

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

		計画開始年度前年度の実績	実績報告				
			(R4)年度	(　)年度	(　)年度	(　)年度	(　)年度
原油換算エネルギー使用量	kL	15,438	15,450				
温室効果ガス総排出量	t-CO_2	28,664	26,569				
エネルギー起源CO_2	t-CO_2	28,664	26,569				
非エネルギー起源CO_2	t-CO_2						
CH_4	t-CO_2						
N_2O	t-CO_2						
HFCs	t-CO_2						
PFCs	t-CO_2						
SF_6	t-CO_2						
NF_3	t-CO_2						
エネルギー等原単位の推移		18.2	16.9				

備考　「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

（1）再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	太陽光発電設備の設置（505kW）	R4年12月	計画通り実施
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	太陽光発電設備の追加設置を検討する
2	
3	
4	
5	

（2）所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	505	kW	水力･小水力	0	kW	地熱	0 kW
太陽熱	0	kW	バイオマス	0	kW	その他（　　）	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績							

（3）再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

		計画開始年度前年度の実績	実績報告				
			(R4)年度	(　)年度	(　)年度	(　)年度	(　)年度
再エネ電気設備での発電量	kWh	0	134				
上記のうち自家消費量	kWh	0	134				

6　事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減によりCO_2ネットゼロ社会づくりに貢献する取組

（1）取組の内容およびその実績

取組の内容等	取組の実施状況
コンデンサ用素材生産を通じた低炭素社会づくりへの貢献 　滋賀工場では、コンデンサ（産業界全てにおいて電力を変換する用途）用の素材であるポリプロピレンフィルム（以下、PPフィルム）を生産している。特に自動車メーカからの小型大容量化の要求があり、極薄PPフィルムを供給している。これらの製品を使ったxEV（電動車、以後xEVと略す）は、ガソリン車と比較してCO2排出量が少ないため温室効果ガス削減に貢献するものです。 本計画期間において、xEV用PPフィルム生産通じて、xEVを社会へ供給し、低炭素社会作りを推進していきます。	計画通り実施
	8,448,934　　t-CO2

「黄色セル」は、計画策定時、変更計画策定時に記入します。
「水色セル」は報告書作成時に記入します。

定量的なCO_2削減貢献量の算出が困難な取組についても積極的に記載をお願いします。

（2）上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

目標および目標設定の考え方
目標：　当工場で生産しているPPフィルムのうち、計画期間におけるコンデンサ用PPフィルムの生産を通じて社会に供給されるxEVにより、令和4年度872万t-CO2の二酸化炭素排出量削減に貢献する。 考え方：ガソリン車1台あたりのCO2排出量からxEV車1台あたりの排出量の差を販売数量で算出した。 {（ガソリン車1kmあたりのCO2排出量）-（xEV車1kmあたりのCO2排出量）}×（年間走行距離）×（平均使用年数））×（xEV生産量）

（3）上記の取組にかかる目標の進捗に対する自己評価およびCO_2削減貢献量の算出根拠

目標の進捗に対する自己評価
令和4年度目標872万t-CO2には未達であったが、令和3年度実績（818万t－CO2）を上回るCO_2削減貢献量となった
CO_2削減貢献量の算出根拠
ガソリン車1台あたりのCO2排出量からxEV車1台あたりの排出量の差を販売数量で算出した。 {（ガソリン車1kmあたりのCO2排出量）-（xEV車1kmあたりのCO2排出量）}×（年間走行距離）×（平均使用年数））×（xEV生産量） xEV生産量はコンデンサ用PPフィルムの生産量から算出する理論数